

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500740

研究課題名（和文）ベトナム北部農村集落における伝統衣服の研究

研究課題名（英文）Survey research on traditional clothing in a northern rural district in Vietnam

研究代表者

谷井 淑子（TANI YOSHIKO）

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：10095929

研究成果の概要（和文）：ベトナム北部の典型的な農村集落であるドゥオンラム村の衣生活調査を中心に、中部、南部の農村についても調査研究を行い、農村集落における伝統衣服の基本様式を明らかにすることを目的とした。伝統衣服の形態は地域ごとに特徴があり、特にドゥオンラム村では現在でも高齢女性の多くが伝統衣服を着用しており、アオ・ザイの祖形といわれる北部特有の伝統衣服であるアオ・ナム・タンについて着装法、被り物等その特徴を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：We surveyed the clothing habits of mainly Duon Lam village (a north district in Viet nam) and other rural areas which were north and middle districts in order to know the basic style of the traditional clothes in the farming villages. The traditional clothes of these districts have specific features respectively and many elderly women over eighty years old wear the traditional clothes even now especially in Duon Lam village. Ao nam than is said to be the original form of current ao dai. We revealed the wearing way of the ao nam than, headdress and so on, which were typical traditional clothing in north districts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：衣生活・ベトナム・農村・伝統衣服・日常着・繊維材料・着装・染色

## 1. 研究開始当初の背景

昭和女子大学では 1992 年より国際文化研究所が中心となり、日本の文化庁とベトナム政府からの要請をうけ、国際協力事業に取り組み、建築、考古学分野においてホイアンの町並み保存事業をはじめとして数々の実績を積み、1999 年のホイアンの世界遺産登録に貢献した。2003 年度からは文化庁の指導のもと、奈良文化財研究所と共に、ベトナム・ドゥオンラム村を対象とした「ドゥオンラム村農村集落保存」事業(代表:友田博通)に取り組み、衣生活グループも 2005 年度より研究プロジェクトに参加し、ベトナム北部ドゥオンラム村を中心に中部・南部の農村集落においても衣生活調査を継続して実施してきた。ドゥオンラム村は、これらの研究成果により 2005 年にはベトナム農村集落第一号文化財として国の指定を受け、2006 年には新文化財保護法の適用第一号となり、世界遺産をも視野に入れた本格的な保存活動が進められている。

ドゥオンラム村は、伝統的な生活様式が色濃く残された典型的な農村集落であるが、ベトナム全土で急速に進む経済発展や近代化に伴い、村人の生活全般も大きく変化し、伝統文化や習俗が急速に失われつつある。衣生活においてもその傾向が顕著にみられ、気候風土に適した伝統的な衣服や被り物は、高齢女性にのみ僅かに残されているのが現状で、次世代には受け継がれておらず、生活様式の変化とともに伝統的服飾文化もまた消え去ろうとしている。

## 2. 研究の目的

農村集落の保存活動において、人間の営みである生活調査は最重要課題であり、中でも衣生活の調査研究は、民族の美意識や精神文化を知る手立てとなるものであり、その意義

は大きい。しかし、日常的に着用する衣服は襤褸になるまで使い切るのが常であり、保存されにくく、時の経過とともに滅失する運命にある。さらに、髪形や被り物などの着装法をも含めた服飾そのものの実態が伝世困難なものだけに、これらの過去の服飾文化を適切に後世に伝えるためには、衣生活全般を有形無形の文化財として位置づけた記録作成の措置が求められる。ドゥオンラム村の高齢者とともに途絶えつつあるこれらの伝統的な服飾文化が消えゆく前に、衣生活の現状を詳細に調査研究し、後世に伝えるための記録・保存が急務であることが確認できた。

以上の経緯を踏まえ、本研究では伝統的な生活様式を今に残すドゥオンラム村の衣生活調査を中心として、同様に伝統的な生活文化を残す中部、南部の農村集落においても調査研究を行い、ベトナム北部農村集落の伝統衣服の基本様式と、現存する伝統衣服の資料的価値を明確にし、「ベトナム伝統農村集落地域比較研究と保存」プロジェクトにおける衣生活部門の早急な記録・保存を推し進めることを目的とする。

## 3. 研究の方法

ベトナム北部、首都ハノイに隣接するハイ省のドゥオンラム村を主な研究対象とし、中部ではトゥアティエン・フエ省のフォックティック村、南部ではドンナイ省のフーホイ村での衣生活調査を実施した。

各地域とも主に高齢者を対象に、伝統衣服及び各世代の着用衣服についての聞き取り調査を行なった。調査内容は高齢者の伝統衣服の着用状況、所有する伝統衣服の種類、幼少時から現在に至るまでの伝統衣服の着用経験等について聞き取りを行ない、高齢者の所有する衣服の実測と、着装法の確認、写真撮影、伝統衣服のデータ収集、整理、解析を

行なった。聞き取り内容はデータ化し、衣服の実測結果を基に各衣服を図面化し、二次資料とする。

#### 4. 研究成果

##### (1) ドゥオンラム村の伝統衣服

ドンラム村の人々の日常着の現状は、男女ともにシャツやズボンなどの洋服を着用しており、また、女性にはベトナム女性特有の衣服である上衣と下衣が共布でできた、ド・ボが日常着として幅広い年齢層に着用されている。その中であって、70歳以上の高齢女性には民族特有の伝統的な衣服が現在も残されており、日常着として着用されていることが確認できた。

高齢女性が着用する伝統的な日常着は、イエム（胸当て）の上にアオ・カイン（上衣）を着てクアン（ズボン）をはき、さらに外出などの際には、その上にアオ・ナム・タン（五枚はぎの長い上衣）を組み合わせ、腰に帯を結ぶ。髪型や被り物にも特徴があり、高齢女性の多くは、長い髪を一つに束ね、束ねた髪を带状の布で包み、まとめた髪を頭囲に添わせて結び上げ、その上に黒のカチーフを被る。



図1 ドゥオンラム村（北部）の伝統衣服

上衣：イエム、アオ・カイン、アオ・ナム・タン  
下衣：クアン

アオ・ナム・タンは、現代のアオ・ザイの祖形といわれるもので、身幅のゆったりとした丈の長い平面構成の上着である。かつては布の織幅が狭く、前後の身頃は二幅を縫い合わ

せて一枚の身頃としたもので、一幅の右前身頃を下前とし、その上に二幅の左前身頃を合わせる。後身頃と合わせて五幅が必要となることから「五枚はぎの長い上衣」と表される。立て衿の衿元から右脇へボタンで留めて着装するが、ボタンを留めず、下前と上前を結んでアオ・トゥ・タンのように着用することもある。袖は裁ち出し袖で、布幅を最大限に生かした構成法であり、ほとんどが茶系統の無地布でつくられる。アオ・ナム・タンの下前丈に着目すると、1930年から1940年代にかけて仕立てられたものは身丈と同寸であるのに対し、比較的新しく仕立てられたものは、下前丈が短く、幅も一幅よりも狭くなり、時代が下るとともに下前が小さくなっていることが確認できた。現代のアオ・ザイは前後の身頃がそれぞれ一枚布のワンピース形式で、前たての重なりが少ないものであり、アオ・ナム・タンからアオ・ザイへの推移を下前丈の変化からも見て取ることができる。

日常着は継ぎを当て、繕いながら襤褸になるまで使い切るのが常であるため、古い衣服が保存されにくいのが、今回の調査では最も古い日常着として、約60年前のアオ・ナム・タンを観察することができた。これは、当時80歳の女性が結婚の際に着用し、その後も日常的に着用を続けたというもので、アオ・ナム・タンの形態や素材の変遷を辿る上での貴重な資料であると思われる。布幅が約26センチと狭く、前後の裾部では両側に布を足して裾幅を広げる工夫がなされている。袖布も布幅が狭いため、2段階に接いで裁ち出し袖の袖丈を確保している。

ドゥオンラム村では約40~50年前までは高齢者だけでなく、若者たちもアオ・カイン、アオ・ナム・タン、クアンなどの伝統衣服を着用していたということであるが、その後、伝統衣服は「流行遅れでかっこ悪い」「古臭

い」などの理由で敬遠されるようになり、洋服へと移行していった。一方、高齢者が現在でも伝統衣服を着用し続ける理由としては、「習慣だから」「着慣れている」「楽だから」などの理由が挙げられ、昔ながらの服装に馴染み、変化を好まないという様子が伺える。丈の長い上着、アオ・ナム・タン(5枚接ぎ)、アオ・トゥ・タン(4枚接ぎ)、寒冷時に防寒用として着用したアオ・ボン(キルト)、被り物などは、ベトナム北部農村の特徴的な伝統衣服であり、ドゥオンラム村には年代の古い伝統衣服が現在でも多く残されていることが確認できた。また、染色技法についても、現在では廃れてしまっているが、北部の特徴的な染色技法である、クーナウの塊根を用いたクーナウ染めによる茶色布の染色についても、その工程を再現し、明らかにすることができた。

## (2) フォックティック村の伝統衣服

フォックティック村の人々の日常着の現状も、男女ともに年齢を問わずシャツ、ズボンなどの洋服を着用している。また、ベトナムの女性特有の衣服である、上衣と下衣が共布でできた、ド・ボが日常着として幅広い年齢層に着用されている。その中であって70歳以上の高齢女性には民族特有の伝統的な衣服が残されており、現在でも日常的に着用されている。また少数ではあるが高齢男性も伝統的な衣服を現在でも日常着として着用している。

高齢女性の伝統的な日常着は、上衣にアオ・カインあるいはアオ・ロを着用し、その上にアオ・ババを重ね、下衣にはクアンをはく。アオ・カインは薄地で作られた丈の短い上衣で、一番内側に下着として着用される。半袖が多いが、中には袖なしや、スリットの入ったものなどバリエーションがある。下着

ということであるが、暑い時や室内では上に何もはおらず、アオ・カインとクアンだけで過ごすのが一般的である。

アオ・ババはベトナム中部の特徴的な伝統衣服であり、共布で下衣のクアンを仕立て、上下セットで着用するのが基本である。袖の形態には裁ち出し袖、セットインスリーブ、ラグラン袖の3種のバリエーションが見られる。裁ち出し袖は、かつて織幅の狭い布しか手に入らなかった時代の平面的な仕立て方で、最も古い伝統的な形態である。現在はラグラン袖が主流となっている。アオ・ババは来客時や外出時に、上着としてアオ・カインあるいはアオ・ロの上に着用する。色については、1960年ごろまでは黒、茶などが一般的であったというが、現在は濃色、淡色とも様々な色合いのものがある。柄物ではなく、色無地、地紋織などで光沢感のある比較的柔らかい布地で仕立てられるのが特徴である。



図2 フォックティック村(中部)の伝統衣服  
上衣:アオ・ババ、下衣:クアン

## (3) フーホイ村の伝統衣服

フーホイ村の人々の日常着の現状は、男女共に洋服が主体であるが、70歳以上の高齢女性には民族特有の伝統的な衣服形態が現在も残されている。伝統衣服は中部と同様にアオ・ババであり、下着にはアオ・トゥイ、下衣にはクアンを現在でも日常着として着用している。

アオ・ババの基本形は、衿なし、長袖、前開きで、脇にスリットが入り、着丈は少し長

めの腰丈程度である。フーホイでは柄物のアオ・ババと黒のクアンと組み合わせて着用するのが一般的であるが、共布で仕立てたクアンと、上下揃いで着用する場合もある。袖の形態には裁ち出し袖、セットインスリーブ、ラグランスリーブの3種のバリエーションが見られ、伝統衣服の袖に複数の形式が見られるのはフーホイ村の特色である。最も古い袖の形態は、平面構成による裁ち出し袖で、身頃と袖は一枚の布でできている。聞き取り調査から、ラグランスリーブ、セットインスリーブはベトナム戦争後の1975年頃から取り入れられたことが分かった。衿ぐりの形には首回りに沿わせた丸形、すこし明きの深いハート形があり、高齢女性の多くは衿の詰まった丸形を好む傾向にある。アオ・ババは外出時や来客時に、上着として着用するため、肌の露出が少なく、改まった印象である丸形が好まれるのではないと思われる。



図3 フーホイ村（南部）の伝統衣服  
上衣：アオ・ババ、下衣：クアン

#### (4)おわりに

ベトナム北部・中部・南部の農村集落の高齢者を対象に伝統衣服についての聞き取り調査を行ない、伝統衣服の種類、形態、着装法などの基礎資料を収集してきたが、いずれの地域でも伝統的な衣服を着用するのは主に70歳以上の高齢女性であり、現高齢者が伝統的な衣服を着用する最後の年代であることが確認できた。

北部・中部・南部の伝統衣服の比較におい

ては、地域ごとに特徴があり、歴史的背景や社会・経済情勢などの影響を受け、時代とともに変容していることが明らかとなった。

北部のドゥオンラム村ではアオ・カイン、アオ・ナム・タンなどの伝統的な日常着の年代の古いものが残されており、現在でも着用されている例がみられた。中部のフォックティック村や南部のフーホイ村では、古い衣服はほとんど残っておらず、アオ・ババ、クアンなどは伝統的な衣服形態を踏襲はしているものの、モノ自体は比較的新しいものが多く、着古した古い衣服はほとんど見られなかった。

伝統衣服の地域比較では、衣服の名称は同じであるがその形態や着用方法が異なるもの、名称は異なるが形態や着装方法が似たものがあり、伝統衣服の種類、形態、着装方法についてはさらなる資料収集と分析が必要であると思われる。



図4 アオ・カイン

左：ドゥオンラム村、 右：フォックティック村

3年間の科学研究費補助金によって北部のドゥオンラム村での実態調査を中心に、調査対象を中部及び南部の農村にも広げることができ、北部の伝統的な衣服の資料価値を明確にするとともに、中部・南部の伝統衣服の特徴を確認することができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 谷井淑子、猪又美栄子、小原奈津子、下村久美子、3 Clothing habits of PhuocTich、Village Survey Report PhuocTich Ancient Village Nara National Research Institute for Cultural Properties、査読無、2012、128-135
- ② 小原奈津子、下村久美子、谷井淑子、金井まゆみ、ベトナムの伝統的手法によるクーナウを用いた染色について、昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要、査読有、vol. 21、2012、137-144
- ③ 谷井淑子、猪又美栄子、小原奈津子、下村久美子、フオックティック村の衣生活、フオックティック村集落調査報告書昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、vol. 15、2011、128-135
- ④ 谷井淑子、猪又美栄子、小原奈津子、下村久美子、フオックティック村の衣生活、フオックティック村集落調査報告書ベトナム社会主義共和国 トゥアティエン・フエ省フオックティック村集落調査報告書、奈良文化財研究所、査読無、2011、128-135
- ⑤ 谷井淑子、猪又美栄子、小原奈津子、下村久美子、PhanHaiLinh 他、Clothing and Customs、昭和女子大学国際文化研究所紀要(ホイアン国際シンポジウム報告書)、査読無、vol. 14、2011、85-164
- ⑥ 谷井淑子、金井千絵、小原奈津子、下村久美子他、ドゥオンラム村の衣生活、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、vol. 13、2010、15-40
- ⑦ 金井千絵、下村久美子、谷井淑子、小原奈津子、猪又美栄子、東京とハノイの衣生活-女子学生の着意意識と衣服管理-、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、vol. 13、2010、131-139

〔学会発表〕(計8件)

- ① 小原奈津子、下村久美子、金井まゆみ、谷井淑子、ベトナムの伝統的手法によるクーナウの染色について -染色綿布の光劣化-、日本繊維製品消費科学会 2011年年次大会、2011年6月26日、武庫川女子大学(兵庫)
- ② 猪又美栄子、谷井淑子、加藤求、下村久美子、ハノイ近郊ドゥオンラム村の高齢女性の衣生活 -伝統衣服と洋服-、日本家政学会第63回大会、2011年5月28日、和洋女子大学(千葉)
- ③ 谷井淑子、猪又美栄子、小原奈津子、下村久美子、Traditional wear in three rural districts in Vietnam、ベトナム・ホイアン国際シンポジウム、2010年12月4日、昭和女子大学(東京)
- ④ 下村久美子、ベトナムの衣服染色に使用されていたクーナウの染色方法と染色性、日本家政学会第62回大会、2010年5月29日、広島大学(広島)
- ⑤ 猪又美栄子、Comfortable Clothes、2<sup>nd</sup> International Symposium “Clothing and Customs” 2009年8月15日、Cargo Club(Hoi An, Viet Nam)
- ⑥ 谷井淑子、Japanese working Clothes: Koginzashi and Nambu Hishizashi、2<sup>nd</sup> International Symposium “Clothing and Customs” 2009年8月15日、Cargo Club(Hoi An, Viet Nam)
- ⑦ 小原奈津子、New Identification Method of Excavated Vegetable Fibers -Hemp and Ramie in Dong Son Period、2<sup>nd</sup> International Symposium、 “Clothing and Customs” 2009年8月15日、Cargo Club(Hoi An, Viet Nam)
- ⑧ 下村久美子、Dyeing of Textile Fibers with Natural dye in Japan、2<sup>nd</sup> International Symposium、 “Clothing and Customs” 2009年8月15日、Cargo Club(Hoi An, Viet Nam)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

谷井 淑子 (TANII YOSHIKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号：10095929

### (2) 研究分担者

猪又 美栄子 (INOMATA MIEKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号：50184784

小原 奈津子 (KOHARA NATSUKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・教授  
研究者番号：90178301

下村 久美子 (SHIMOMURA KUMIKO)  
昭和女子大学・生活機構研究科・准教授  
研究者番号：80162816

### (3) 研究協力者

Phan Hai Linh  
ハノイ国家大学・人文社会科学大学・東洋学部日本語学科・教授

Nguyen Trang Minh  
昭和女子大学・文学研究科・学生

Tran Thi Viet Ha  
昭和女子大学・生活機構研究科・学生

Kieu Hong Hanh  
ハノイ国家大学・人文社会科学大学・東洋学部日本語学科・学生

金井 千絵 (KANAI CHIE)  
昭和女子大学・生活科学部・助手  
研究者番号：40419726

加藤 求 (KATOH MOTOMU)  
昭和女子大学・生活機構研究科・学生